

戦争と自然災害を前にして —今 私たちにできることは?—

牧野 直子

すすむ地球温暖化

地球温暖化防止のための国際会議、いわゆる COP3 が京都で開催されたのが 1997 年 12 月でした。そのときに京都議定書が採択されました。CO₂排出量の削減目標が決まりました。私が箕面市議になった翌年でした。にもかかわらず、地球温暖化はすすみ、今年の夏は猛暑に襲われました。当時「地球温暖化は実際に兆候が現れてからではもう取り返しがつかない」と言われたことを思い出します。今からではもう手遅れなのではないでしょうか？

日本の今後のエネルギー政策

1995 年の阪神淡路大震災、2011 年の東日本大震災、そして今年は能登半島の地震。能登半島では地震の後に水害という二重の自然災害に見舞われました。今後、南海トラフの影響が気になります。日本は地震大国なのに、原発というエネルギー政策をいまだすすめようとしています。

私たちが今まずすべきことは「省エネ」ではないのでしょうか？

箕面市ではかつて「コンポスト」という堆肥化容器を希望する家庭に配っていました。つまり家庭から出る生ごみをたい肥化することをすすめていたのです。でもいつの間にかそういう動きもなくなりました。そしていたるところに自販機が置かれるようになりました。エネルギーの無駄遣いに何も感じなくなりました。

かつて買い物は対面方式での量り売りでしたが、今やスーパーやコンビニでパックされたものを買うのが普通になりました。当然大量のプラスチックごみが出ます。トレイをリサイクルに出すことはもちろんですが、リサイクルの前にできることもあります。

3R (スリーアール) というのをご存じでしょうか？ Reduce (リデュース)、Reuse (リユース) Recycle

(リサイクル) の頭文字をとった言葉で、循環型社会の構築を目的とした環境対策の取り組みです。「結みのお」の合言葉は「あるものは活かそう!」です。

例えば、結ルームのすみっこバザーも結文庫もいわば会員同士の「リユース」、また傘布を利用した会員手作りのマイバッグの販売は「リデュース」、事務所で使ったコーヒーやお茶の葉も捨てずにプランターの肥やしにするのは「リサイクル」です。



これからのまちづくり

今年の夏、箕面では市長選、市議選があり、若い市長や市議、そして約半数が女性の市議という結果となりました。先日議会傍聴し、とても新鮮に思えました。これからの箕面のまちづくりに期待したいと思います。「緑のまちづくり」そして「持続可能な社会」をぜひみんなの力をあわせてめざしたいものです。そのためには使い捨てしない「資源循環型のまちづくり」が必要です。次世代の子どもたち、孫たちの未来に希望が見いだせるために私たち世代ができることを考えたいと思います。

被団協にノーベル平和賞！

今、世界のあちこちで戦争が起きています。戦争は何よりの環境破壊です。

このたびノーベル平和賞が日本の被団協に決まりました。唯一の被爆国である日本の中から声を上げて続けてきたことが評価されたのです。核のない世界を次世代に引き継ぎたいものです。

(被団協：日本原水爆被害者団体協議会)